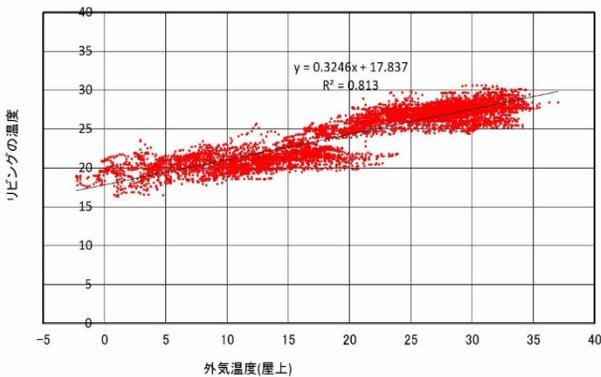


## 室内温度とエネルギー

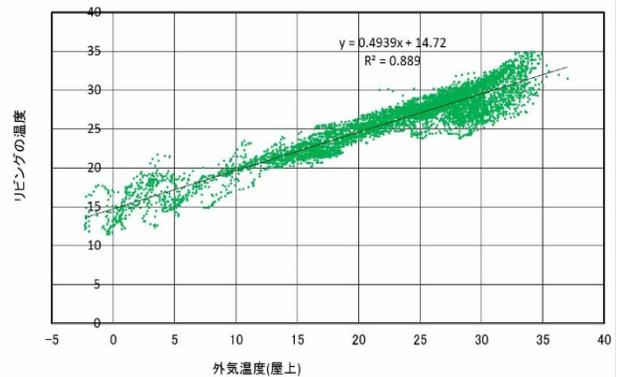
Report02「断熱性による室内環境の違い」と同様にプロットした図から、エネルギーの使い方の差も見てきます。エネルギーを使って快適性をキープしている住戸と、エネルギーを控えめに使っている住戸では、約1.4倍の差となるケースもありました。

### 1.外気温と室内温度のグラフから見る快適性の差

D住戸



E住戸



ここで比較しているD、Eの住戸は、NEXT21の同じ階なので、断熱仕様が同じで、床面積も、約130m<sup>2</sup>でほぼ同じです。

また、家族数は、D住戸は夫婦と成人の子供が1人、E住戸は、夫婦と小さい子供2人です。2戸の住戸について、外気温度と室内温度の相関をプロットしたのがこの図です。

このグラフで、切片は、外気温度が0℃の時の平均的な室温を示します。

	切片	傾き
D住戸	17.5(℃)	0.349
E住戸	13.1(℃)	0.543

この2戸の住戸のエネルギー使用量を比較します。いずれもセントラル方式の冷温水空調で、補助的に、ガスファンヒーター(開放式暖房機)を使用しています。そこで、冷温水+ガスの合計エネルギーを比較します。

	ガス	冷温水	合計
D住戸	56.4 GJ/年	45.3 GJ/年	101.76 GJ/年
E住戸	45.5 GJ/年	20.3 GJ/年	75.21 GJ/年

このように、D住戸は、E住戸の約1.4倍のエネルギーを使って、住戸内の快適性を維持していることがわかります。

人によって温冷感や着衣量の好みも異なります。住戸間の差は意外に大きいと言えます。

以上